

埼玉県における温暖化対策の課題について

分野等	現状及び課題	検討の方向性
産業部門	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産業部門が全排出量に占める割合は高い。 ○ 一定規模以上の工場等で環境負荷低減計画を策定し県に提出する取組(彩の国エコアップ宣言)等がある。 提出する事業者の数は増加しているが、総量として削減実績になかなか結びつきにくい。 ○ 建物の環境配慮が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経済成長と調和しながら一層の温室効果ガスの削減を促す仕組み ○ 大規模建築物における環境配慮
家庭部門	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温室効果ガス排出量の増加割合が高く、今後とも増加見込み。 ○ 県民においては漠然とした危機感を持っているが、直接行動に結びつきにくい。 ○ エコライフ DAY(1日環境家計簿)に参加した人が61万人/700万県民。 1日よりさらに継続的な取組が求められている。 ○ 建物の環境配慮が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの家庭、個人が自発的、継続的に取り組み、実効性の上がる方法 ○ 深夜化するライフスタイルの見直し ○ 省エネ家電の普及促進 ○ 大規模建築物(マンション)における環境配慮
運輸部門	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温室効果ガス排出量の伸びは抑えられているが、依然として全排出量に占める割合は高い。 ○ 自動車交通量は増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低燃費車の導入促進など一層の温室効果ガスの削減を促す仕組み
業務部門	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温室効果ガス排出量の増加割合が高い。 ○ 今後も排出量増加が予想される。 ○ 営業時間などが長時間化している。 ○ 建物の環境配慮が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 排出量増加を抑える効果的な仕組みの構築 ○ 深夜化するビジネススタイルの見直し ○ 大規模建築物(オフィスビル)における環境配慮
再生可能エネルギーの一層の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県は快晴日数が日本一であり、太陽光の活用が効果的。 ○ 経済性などの問題から太陽光発電の普及が飛躍的には進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭、民間事業者における導入促進する仕組みの構築や関係者の連携強化
二酸化炭素吸収源対策 ヒートアイランド対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県の森林は維持管理が難しくなっており、二酸化炭素吸収機能の面でも懸念。 ○ 昨年夏の熊谷市が国内最高気温を記録するなど、本県におけるヒートアイランド対策は喫緊の課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「彩の国みどりの基金」を活用し、県民参加による森林の整備・保全 ○ 効果的なヒートアイランド対策を推進するガイドラインの策定